様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 1 日現在

機関番号：３４６０３
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５２０６９９
研究課題名（和文）　中国の集市流通システムの近年における変容に関する研究

研究課題名（英文）　Recent changes of trading system through markets in China.

研究代表者
石原　潤（ISHIHARA, HIROSHI）
奈良大学・学長
研究者番号：７００８０２６５

研究成果の概要（和文）：
中国の集市の発展は、改革開放以後、少なくとも、１９９０年代半ばまでは右肩上がりで進行し、その総数では革命以前の数をはるかに凌駕し、取引高では小売販売額の過半を占めるまでに至った。しかるに、１９９０年代の半ば以降、注目すべき変化が現れる。すなわち１９９４年以降の農村集市数の減少、１９９８年以降の集市総数の減少、２０００年以降の集市取引高の停滞、及び２０００年以降の小売販売額に占めるウエイトの低下である。集市は相対的地位低下の局面に入ったと考えられる。このような地位低下が、どのような要因によってもたらされたか、またそれが都市及び農村の地域構造にどのような影響をあたえると考えられるかを検討した。
公式統計の分析と、３年度にわたる４地域での現地調査から、次のような諸点が明らかになった。まず、集市数の減少は、交通上の配慮からの街路市の廃止や、「退路進庁」政策を通じての常設店舗化によって進行している。また、集市売上高の停滞、及び小売業売上高に対するそのシェアーの低下は、集市数の減少に加えて、常設店舗の増加、更には近年の都市及び農村部における大型・小型スーパーマーケットの出現・増加、それらと関連しての消費者行動の変化に因っている。さらに、多様な集市群を全体から見ると、階層分化と専業化の傾向が認められる。最上位に位置する「億元以上交易市場」にも専業化の傾向が見られ、かつ一層の規模拡大が進んでいる。たとえば、大都市の蔬菜卸売市場の現地調査からは、市場間の激しい競争と共に、機能分化や階層分化の傾向が明らかになった。なお、広義のモータリゼーション（バス交通の改善、オートバイや自家用車の普及）が、低次中心の集市の淘汰をもたらしている可能性があるが、この点については、今回の調査では、直接確認できなかった。今後の課題である。

研究成果の概要（英文）：
Development of markets in China has continued from 1979 at least until the middle of 1990's. The total number of markets exceeded that before the socialist revolution, and the sale at the markets accounted for more than half of retail trade sale. Some noteworthy changes however have appeared since middle of 1990's. These are, the decrease in number of rural markets, that in total number of markets since 1998, the stagnation of sale at the markets, and the fall of weight of market trade among retail trade sale. The phase seemed to start in which the markets have to lose their high status. The author investigated what kind of factors brought on such loss of the status, and what kind of results will be brought on the structure of urban and rural areas.
The fallowing points are identified by the analysis of official statistics and the fieldworks at four research areas in three years. First, the decrease in number of markets was brought on by the abolition of street markets because of transportation problems and the change to permanent shops from market stalls through "from street to building" policy.　Secondly, the stagnation of market sale and the fall of their weight among retail trade sale were caused by the decrease in number of markets, the increase impermanent shops, the recent emergence of large- and small-size supermarkets in urban and rural areas, and the change in consumer behaviors connecting with these phenomena. The collection of markets as a whole seems to be

under the process of polarization and specialization. The biggest class of the markets; so called “the commodity exchange market of transaction value over 100 million yuan” has also been specialized and become bigger in recent years. Severe competition, polarization and specialization were identified from the research works of vegetable wholesale markets in two metropolises; Xian and Zhengzhou. The motorization in broad sense, that is, spread of bus service and diffusion of motorbikes and cars, may have weeded out the lower order markets. The author however could not identify such a case through his fieldwork. This is the theme to be made clear in near future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：①集市　②常設店舗　③スーパーマーケット　④モータリゼーション　⑤中国

１．研究開始当初の背景

中国における集市は、革命前には下位３階層の中心地を形成し、住民の日常的取引の場として極めて重要な働きをしていた。革命後の商業システムの社会主義化により、集市は禁止または抑制されたが、改革開放政策下では、一転して奨励され目覚しい発展を示した。

集市の発展は、少なくとも、１９９０年代半ばまでは右肩上がりで進行し、その総数では革命以前の数をはるかに凌駕し、取引高では小売販売額の過半を占めるまでに至った。しかるに、１９９０年代の半ば以降、注目すべき変化が現れる。すなわち１９９４年以降の農村集市数の減少、１９９８年以降の集市総数の減少、２０００年以降の集市取引高の停滞、及び２０００年以降の小売販売額に占めるウエイトの低下である。集市は相対的地位低下の局面に入ったと考えられる。

２．研究の目的

農村部集市数の減少と、それに続く集市総数の減少は、農村部を中心に、集市の淘汰現象が起こっていることを予想させる。このような集市の淘汰は、どのような形で進行し、どのような原因で起こっているのかを明らかにしたい。一方、集市取引高の停滞と、小売販売額に占めるウエイトの低下は、常設店舗商業の地位上昇と、集市商業の地位低下を推測させる。かつて多くの先進国で進行した過程が、中国でも始まったと考えるべきであろう。そのプロセスの確認と、それをもたらした要因、あわせてそれが今後の中国の商業構造や消費者の行動に及ぼす影響を予測して見たい。

３．研究の方法

研究方法は、文献調査と現地調査からなり、文献調査としては、３年度にわたり、地方誌、工商局誌、年鑑、地図等により、①集市に対する政策の変遷、②集市数、同取引高、同商品別構成の変化、③集市の空間分布や市日配分の変遷を明らかにする。文献は購入するか、所属機関で閲覧し、資料の整理・分析のため、研究補助者を雇用する。

現地調査としては、平成 20 年度は四川省成都市郊外、平成 21 年度は河南省鄭州市及び登封市域、平成 22 年度は陝西省西安市で実施する。いずれも、５～10 年前に調査した地域を再訪し、この間の変化を確認した上で、変化の要因を明らかにし、将来の変化の予測を行う。現地ではそれぞれ、既知の研究協力者の援助を得る。

研究成果は、順次学術誌に公表する。

４．研究成果

（１）　統計に見る全国的動向

まず、集市の近年における全国的動向を統計数値から見ると、中国政府の公式統計を収録する『中国統計年鑑』において、集市売上高の統計は、2003 年を最後に掲載されなくなり、また集市数も、2008 年を最後に掲載されなくなった。かわって近年では、億元以上商品交易市場に関する諸統計が収録されるよ

うになっており、巨大市場の動向は把握できる。

それらによれば、農村部の集市は、1994 年の 66,583 ヵ所をピークに減少を続け、2008 年にはピーク時の 56.7%の 36,570 ヵ所に減ってしまった。これは、農村地域の都市への編入の影響もあろうが、農村部での集市の淘汰をも予想させる。都市部の集市は、2003 年の 27,006 箇所がピークで、その後はジグザグのコースを辿りながらも、2008 年には 24,945 ヵ所にまで減少した。したがって集市の総数も、ピークは 1998 年の 89,177 ヵ所で、2008 年には 69.4%の 61,913 ヵ所にまで減少した。

こうした中で億元以上商品交易市場の統計が出現した 2003 年には、当該市場数は 3,265 ヵ所、取引高 21,514 億元であったのに対し、６年後に当たる最新の 2009 年の統計によれば、当該市場数は 4,687 ヵ所と急増し、取引高は 57,963 億元と倍以上に増えている。このことから明らかなように、全体として集市数が減少するなかで、巨大市場の数とその取引高は拡大しており、すなわち集市の急激な階層分化が進行していると言えよう。また商品の種類別では、綜合市場が 1591 ヵ所から 1280 ヵ所へ減少しているのに対し、専業市場が 1664 市場から 3407 市場へと倍増している。大型市場の専業化が進んでいると言えよう。その中で、ほぼ２倍ないしそれ以上に増えているのは、紡績品服装靴帽市場、家具市場、金属材料市場、糧油市場、干鮮果品市場、水産品市場、蔬菜市場、肉食禽蛋市場、農業生産資料市場などである。

（２）現地調査結果

（ⅰ）四川省成都市東南郊の調査

次に現地調査の結果を報告する。まず平成 20 年度の四川省成都市東南郊外の調査結果によれば、調査した６地区の 13 の市場のうち、1999 年から 2008 年の９年間に、移転したもの１ヵ所、新設されたもの３ヵ所、消滅したもの４ヵ所、衰退傾向のもの１ヵ所、隆盛に向かっているもの２ヵ所、屋内市場化したもの１ヵ所、上屋市場化したもの１ヵ所と、全体として変化が著しく大きいのが特徴である。対象地域は成都市の都市化の前線地域であり、農村的集落が再開発されマンション団地や教育施設になったり、衛星都市がより発展拡大したり、観光集落がより活性化したり、農村的集落が都市的施設の立地で変容したりしている。それらの変化が複雑に働いて、前述の変動をもたらしているといえる。傾向としては、街路市は廃止され、上屋や建物内の市に収容され、「退路進庁」政策が進んでいる。都市化とそれに伴う人口増が、市場の新設や隆盛化を促進している一方、常設店舗やスーパーマーケットの増加が、市場の地位低下を促している面も見られる。

（ⅱ）河南省登封市域の調査

次に平成 21 年度に調査した河南省登封市域の状況を報告する。対象地域は河南省の省都鄭州市から南西へ約 60km の農村地域であり、中心部のみが都市的地域である。1997 年の第１回調査と、今回 2009 年調査までの 12 年間に、集市の明瞭な地位低下の傾向が明らかとなった。まず農村部では、集市出店数の急減が見られ、集市の相対的重要性の低下は否定できない。出店数減少の著しい業種は、生鮮食料品と衣類等工業製品の両方に及んでおり、これらをもたらした要因は、前者に関しては、農村部における小型スーパーマーケットや精肉店の出現が挙げられ、後者に関しては、露天商の店舗商人化や消費者の商習慣の変化が関わっていると判断される。一方都市部では、露天市が交通の障害などの理由で廃止され、「退路進庁」や常設店舗化が進行している。生鮮食料品の常設市場は生きながらえているが、スーパーマーケットや精肉店の普及が進んでいる。

（ⅲ）河南省鄭州市の調査

平成 21 年度には、河南省の省都鄭州市内の野菜卸売市場の調査をも行った。当市は 1995 年の第１回調査のころ、すでに人口は約 200 万の大都市であったが、第２回調査の 2009 年には、人口約 300 万へと、ひとまわり大きくなっていた。

1995 年当時、市街地の北辺に位置した関虎屯市場が、交通上の好位置
と、市街地の北に展開する蔬菜生産基地を背景に、蔬菜卸売市場として圧倒的な地位を占めていた。遠隔地及び近郊産の蔬菜は、当市場に持ち込まれ、市内全域の小売商等に売られていた。当市場は、主として消費地市場の性格を強く持っていたと言えよう。しかし当市場は、増大する蔬菜需要の下、すでにその狭隘性がネックとなっており、2000 年代に入ると、都市化の進展と共に、オフィス用地への土地利用転換がはかられた。

それにかわって消費地市場としての機能を受け継いだのは、陳砦市場であった。当市場は、拡大した市街地の北部に位置し、北郊の蔬菜生産基地や高速道路との関係においても比較的好位置を占めると共に、関虎屯市場の卸売商人の多くを引き受けた。敷地面積、建築面積、取引高で、当市場はかつての関虎屯市場の数倍の規模を誇る。

ところが、2000 年代初頭に、市街地の更に北の端、高速道路のインターチェンジのすぐ傍らに開設された劉庄市場は、陳砦市場のさらに数倍の敷地と建築面積を持ち、24 時間営業、施設利用費を課さないなどの営業戦略で、

次第に大規模商人を引きつけ、広域集散市場としての性格を強く持つようになった。

加えて高速道路の更に北側、郊外の蔬菜生産基地の中に、1990 年代より開設されていた毛庄市場は、現在では陳砦市場の約 2 倍の敷地面積を持ち、劉庄市場を上回る取引量・取引額を誇るに至った。当市場は産地市場としての性格を持っていると言えよう。

以上のように、現在では鄭州市街地の北部・北郊に三つの大きな蔬菜卸売市場が鼎立し、それらはそれぞれ、消費地市場、集散市場、産地市場の性格を持ちながらも、機能が共通する部分も多く、激しく競合している。中央卸売市場のような制度を持たない中国では、卸売市場間の競争は一般に激烈であるが、鄭州も例外ではない。

（ⅳ）陝西省西安市の調査

平成 22 年度は西安市の卸売及び小売市場について、前回 2005 年（平成 17 年）の調査結果と比較しながら、現況調査を行った。

まず、蔬菜卸売市場に関して、上位３市場を訪問し再調査を行った結果、最上位の朱宏路市場は、併設していた水産物市場を閉鎖し、蔬菜卸売市場に特化するとともに、他の卸売市場への転売機能を一層強めるなど、その広域集散市場としての地位を更に高めていた。しかし当市場の敷地が新たな都市計画では高級マンション街に再開発されることに決まったので、当市場は市街地西郊の高速道路である３環路沿いに移転が決まっており、更に巨大化する予定である。第２位の南建朱雀路市場は、水産物部門が加わった他は、大きな変化はなく、広域の取引を行う一方、小売部門をも併設している。第３位の胡家廟市場は、他の用途への再開発のために敷地の一部を失い、狭隘化が進んでいた。売上高は伸び悩んでおり、比較的都心に近いため、レストランなどを相手とした小売機能への転換を模索している。なお、前回調査時点で、建設途中であった辛家廟新市場は、当初の計画では野菜と果物の総合市場とすべく、華南の農産物流通大手企業と地元政府・全国供銷合作社との合資の予定であったが、後者が手を引き、大手企業のみの出資で、結局果物のみの専業市場として開業し、西北地方一帯への集散市場として台頭した。以上のように、西安市においては、卸売市場間に激しい競争を通じての階層分化の進展が認められる。

一方小売市場については、前回調査した事例市場を再訪したが、「退路進庁」政策により建物内に収容された旧露天商の店が、次第に整備されて常設店舗としての外観を呈する傾向が見て取れた。また前回に比し、大型スーパーの店舗が増えているほか、前回はほとんど見られなかった食料品中心の小型スーパーチェーンが出現しており、生鮮食料品購入の場として、スーパーマーケットの比重が高まっていることが否定できない。

（３）結論

以上、統計の分析と３年度４地域での現地調査から、近年の中国の集市をめぐって、次のような諸点が指摘できよう。

集市数の減少は、交通上の配慮からの街路市の廃止や、「退路進庁」政策を通じての常設店舗化によって進行している。

集市売上高の停滞、及び小売業売上高に対するそのシェアーの低下は、集市数の減少に加えて、常設店舗の増加、更には近年の都市及び農村部における大型・小型スーパーマーケットの出現・増加、それらと関連しての消費者行動の変化に因っている。

多様な集市群を全体から見ると、階層分化と専業化の傾向が認められる。最上位に位置する「億元以上交易市場」にも専業化の傾向が見られ、かつ一層の規模拡大が進んでいる。大都市の蔬菜卸売市場の現地調査からは、市場間の激しい競争と共に、機能分化や階層分化の傾向が明らかになった。

なお、広義のモータリゼーション（バス交通の改善、オートバイや自家用車の普及）が、低次中心の集市の淘汰をもたらしている可能性があるが、この点については、今回の調査では、直接確認できなかった。今後の課題としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

石原　潤「中国の集市の革命後の変遷」地理学評論、82 巻、2009 年、73～90 頁。

石原　潤「河南省鄭州市における野菜卸売市場の発展」奈良大地理、16 号、2010 年、32～41 頁。

石原　潤「中国の集市の地位低下について―河南省登封市域を事例に―」奈良大地理、17 号、2011 年、１～13 頁。

〔学会発表〕（計１件）

石原　潤「『変わり行く四川』出版の意図」中国地理研究グループ集会、日本地理学会 2010 年春季学術大会、於法政大学、2010 年。

〔図書〕（計２件）

石原　潤ほか編『寧夏回族自治区の経済と文化』奈良大学文学部地理学科、2009 年、146 頁。

石原　潤編『変わり行く四川』ナカニシヤ出版、2010 年、210 頁。

６．研究組織

(1)研究代表者
石原　潤（ISHIHARA,HIROSHI）
奈良大学・学長
研究者番号：70080265

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし